

在宅看護論Ⅲ 第3回

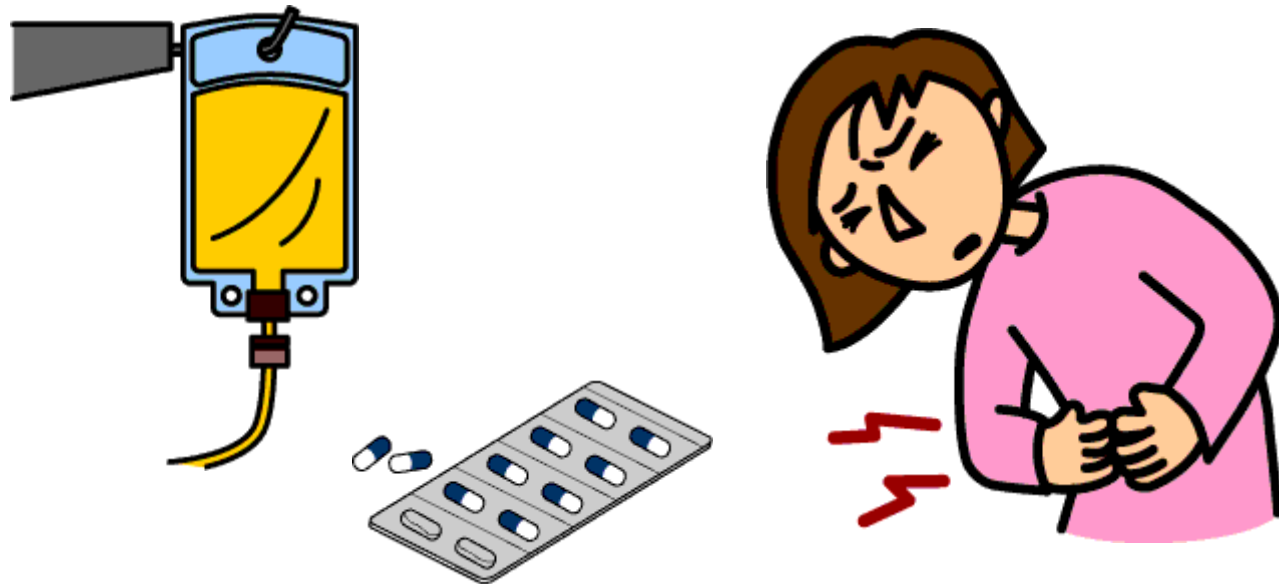
<在宅ターミナルケア③>



福岡水巻看護助産学校
2年生

本日は・・・

在宅がん療養者の疼痛管理を学びます。



苦痛の緩和は、
療養の必須条件!!

痛み
咳嗽、呼吸困難
全身倦怠感
嘔気、便秘...

入院していた方が
良かった...?

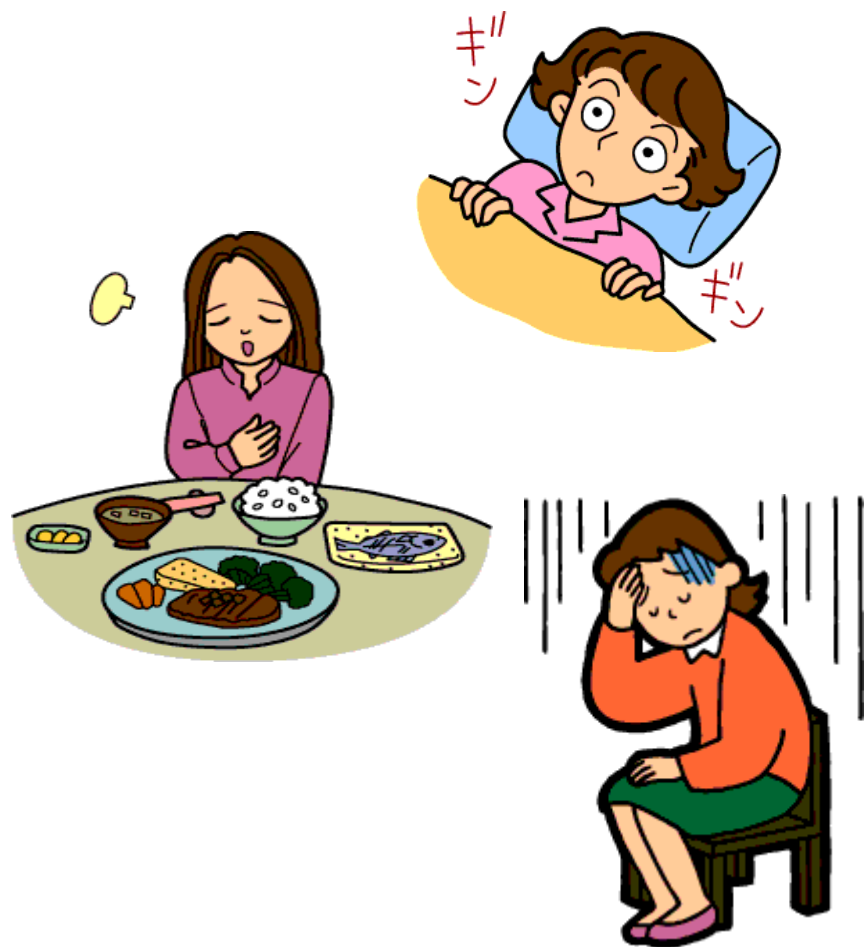


...とならないように

1. 疼痛管理の目的 (資料P.6)

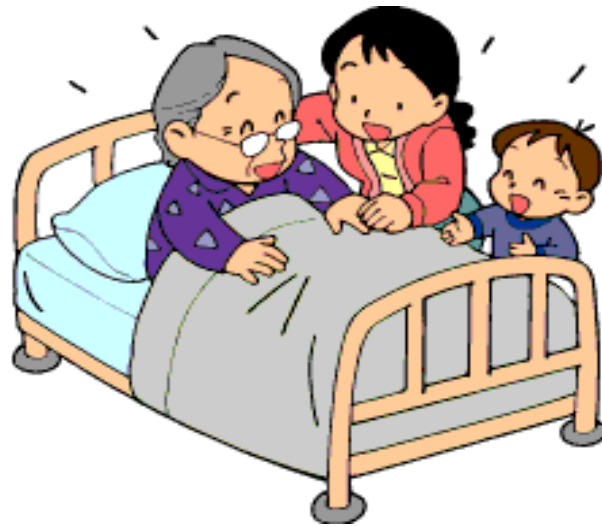
疼痛によって…

睡眠不足
食欲低下
便秘、下痢
入浴できない
人と会いたくない
意欲低下
精神的不安定…



疼痛管理の目的は？

目指しているのは・・・？



2. がんによる疼痛の理解

がん性疼痛と心因性疼痛

◎痛みを我慢しすぎると・・・

⇒ 痛みの増強、慢性化 ⇒ 痛みの悪循環

痛み止めが効きにくい
原因が解消しても痛い

<がん性疼痛の種類と特徴>

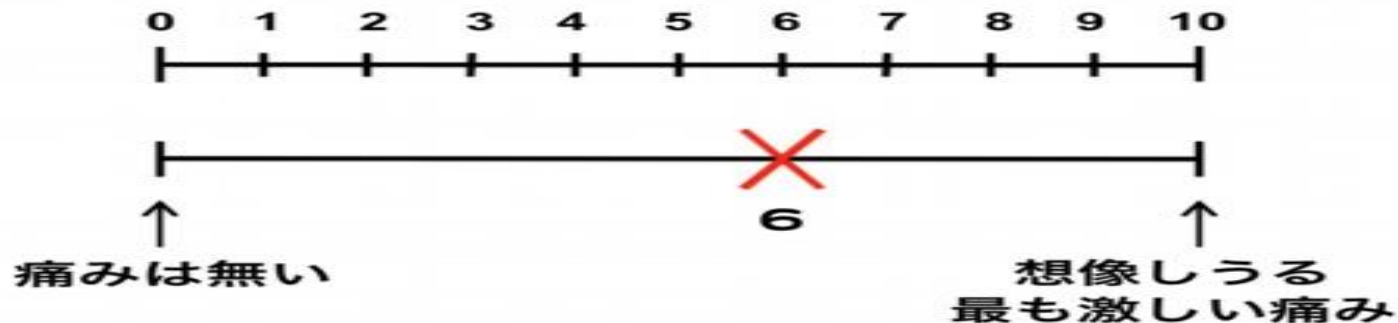
疼痛の種類	訴え方	特徴
骨転移	疼く、さしこむ ズキズキする	<u>体動</u> によって増強する
臓器への浸潤	締め付けられる 鈍い、重苦しい	痛みの部位が不明瞭 離れた部位に <u>関連痛</u> が 起こる場合もある
神経障害 (脊髄圧迫や 神経叢障害)	電気が走る しびれる、灼ける ピリピリする	神経支配領域に 起こる

3. 疼痛をとらえる

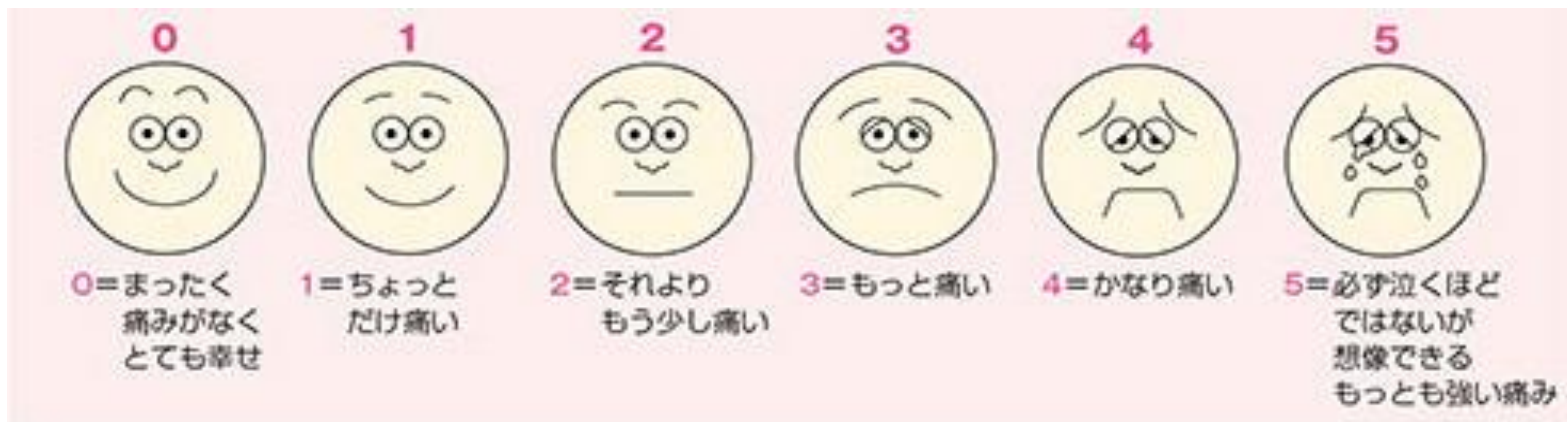
- ① 痛みの部位や性質
- ② 痛みの強さ・・・ペインスケールの活用
- ③ 1日の中での痛みの変化
- ④ 日常生活への影響
 - ・ 食事量、睡眠、ADL
 - ・ その他の活動状況

痛みのスケール

ビジュアル アナログ スケール (VAS)



フェイススケール(Face Scale)



デルマトーム<神経支配を示した人体図>



しかし、痛みは主観的で、病状と一致しないことも...

今日は医師や
看護師が来ない...

これからもっと痛く
なるのだろうか？

痛み止めが
残り少ない。

トイレに行くのも
やっとなで情けない。

今は家族が仕事や
買い物で誰もいない。

緊急訪問が増えると
費用は大丈夫か？



＜増強因子と緩和因子＞

痛みの  **閾値** を上げるように！

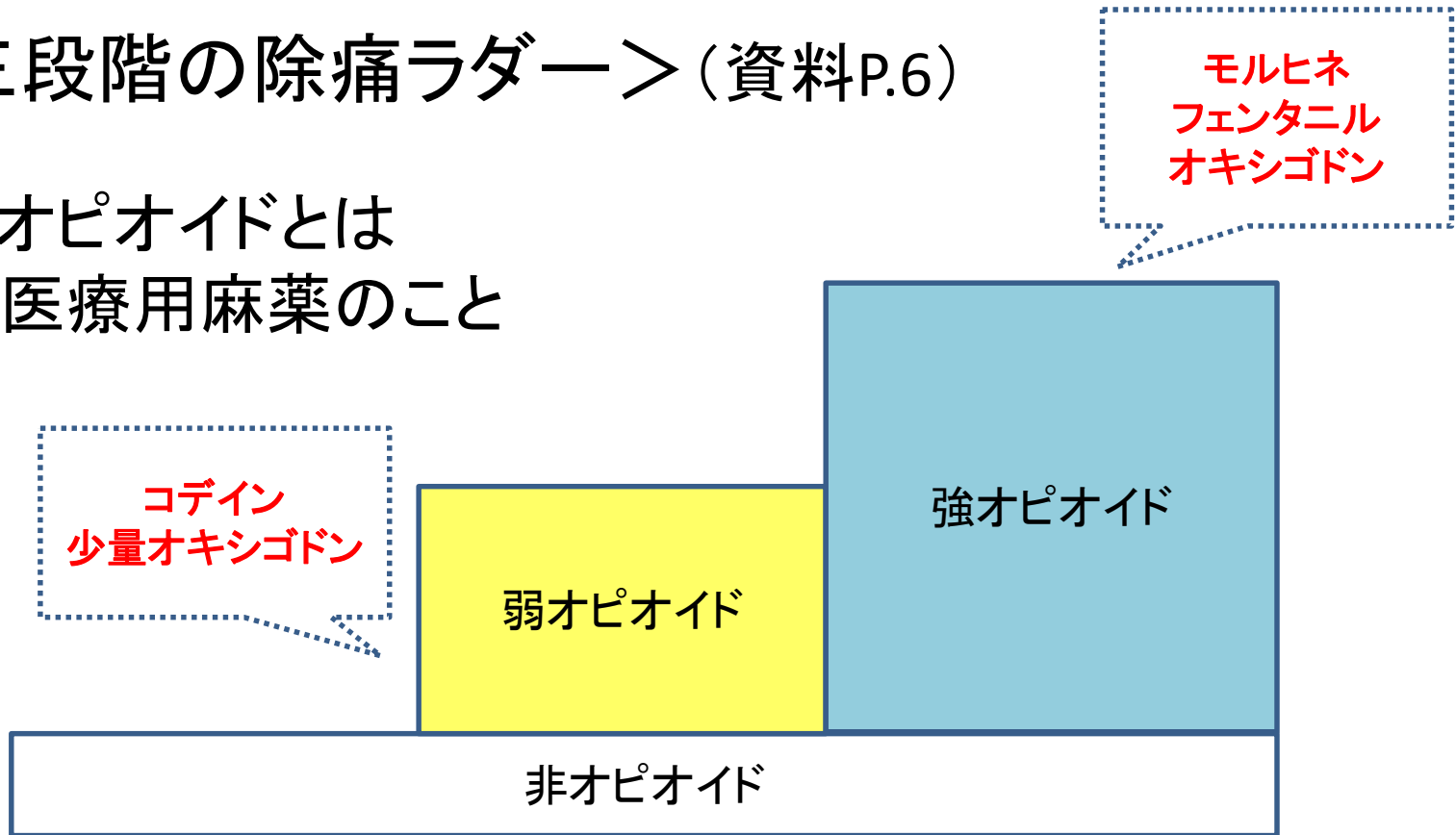
増強因子	不快感、不眠、孤独感、不安 疲労、恐怖、怒り、うつ状態 社会的地位の喪失など
緩和因子	症状の緩和、睡眠 周囲の人々の共感 人とのふれあい、気分の高揚など

☆ 閾値とは？

4. 疼痛コントロールのための知識

＜三段階の除痛ラダー＞（資料P.6）

◎オピオイドとは
医療用麻薬のこと



副作用への予防的対策

副作用	対処時の注意
便秘	多くの療養者に起こる 開始時からの排便コントロール
嘔気、嘔吐	制吐剤の予防的使用
眠気	急な増量では血圧低下に注意

☆ オピオイドスイッチングも有り！

使用の5原則

資料を見て書いてみよう！

①

②

③

④

⑤

< 投与経路の変更 >

経口投与が困難になったら...



<WHO方式 - 疼痛緩和の目標>

目標の段階	具体的内容
第一目標	痛みに妨げられない夜間の睡眠
第二目標	安静時の痛みの消失
第三目標	体動時の痛みの消失

5. 在宅での麻薬の取り扱い

病院・・・**鍵**の付いた金庫に保管

麻薬専用の処方箋

麻薬処方が可能な医師は免許が必要

使用後の注射アンプルや未使用の薬は

薬局に**返却**する

在宅・・・直接、療養者・家族に**手渡し**



注意しましょう！

- ◎薬剤の変更や療養者の緊急入院、
逝去の場合は、**残薬**がないか確認する。
- ◎「痛み止め」との誤解で、錠剤を人に
あげたり、貼用剤を湿布薬をして使用
することがないように注意する。
- ◎子供やペットが、**誤飲**することもあり。

訪問看護持ち運ぶ場合

- ◎看護師は **身分証明書** と、医師が処方の麻薬である証明書を携帯する。
- ◎紛失、盗難、療養者の取り違え予防のため、受け取ったらすみやかに療養者宅に届ける
- ◎届けたら、**受領書** を受取り、医師または管理者にすみやかに提出する。

もし、紛失したら・・・

麻薬を処方した医師と管理者に報告する。

医師・管理者は、**都道府県** に **麻薬事故届** を提出する。

6. 在宅での疼痛コントロールにおける 看護師の役割

- ① **擁護者**（本人・家族に寄り添う存在）
苦しんでいる時間を共に過ごす
苦しみに共感する
家族の介護の大変さにも理解を示す
- ② **代弁者**
医師に本人・家族の希望を伝える
- ③ **多職との連携・協働**
ホームヘルパー との連携
近年はターミナル療養者でも **デイサービス** 利用も増加
地域密着型サービス（小規模多機能型居宅介護など）の
広がりで**独居** でもターミナル療養が過ごしやすくなった。

④療養者・家族への指導

痛みを緩和することの意義

使用薬剤の特徴

用法・保管方法

レスキュードーズの説明

⑤痛みのアセスメント

⑥副作用への対処

資料を見ましょう。

1. 症状 マネジメント
2. 生活 環境 の整備
3. 医療・介護チームの 連携
4. 援助の実施・ 医療ケア
5. 家族 支援
6. 社会資源 活用

配布資料
ターミナルケア
2. 症状マネジメント